

平家谷殺人事件

浅見光彦シリーズ番外

和久井清水・著

文庫判: 296ページ

出版社: 光文社

発売日: 2023年6月13日



〈あらすじ〉

時は明治。代言人（弁護士）試験に落ち、人生の行く末を考えていた浅見元彦の元に、文士（小説家）志望の友人・内田紫堂が不思議な話を持ち込んできた。高知の緒智村に滞在する友人が、紫堂と元彦に謎解きを依頼したいというのだ。

さっそく高知へと向かった二人を待ちうけていたのは、「崇り」に怯える村人たちと、依頼主の死の知らせだった。

平家の宝物が隠されていたとされる山中の洞窟前で発見され、忽然と消えた死体。高知に伝わる「七人ミサキ」の伝承と崇り。事件を予言する老婆。そしてさらなる死者――。

平家の落人伝説が残る地で、探偵・浅見元彦が事件の闇に挑む。

〈登場人物〉

浅見元彦（あさみ もとひこ） …… 主人公。24歳。無職。東京法学院卒業。代言人を目指していたが試験に落ちた。煉瓦町に下宿中。

内田紫堂（うちだ しどう） …… 元彦の友人。24歳。帝国大学に籍を置き文士を目指している。実家は江戸時代から続く信州の名家。

浅見陽山（あさみ ようざん） …… 元彦の兄。38歳。内務省警保局長。浅見光彦の曾祖父にあたる。

お雪（ゆき） …… 元彦の下宿先の女主人。越後出身。若い頃、浅見家で女中をしていた。

おスミ …… お雪の一人娘。17歳。お雪と共に元彦を「坊っちゃん」と呼ぶ。

〈著者略歴〉

北海道生まれ。北海道在住。第61回江戸川乱歩賞候補。2015年宮畑ミステリー大賞特別賞受賞。内田康夫の意志を継いだ「『孤道』完結プロジェクト」の最優秀賞を受賞し、『孤道 完結編 金色の眠り』で作家デビュー。著書に『水際のメメント』、『かなりあ堂迷鳥草子』などがある。